

経営比較分析表

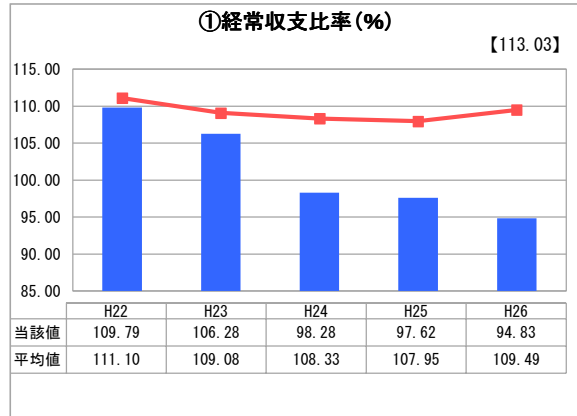
埼玉県 小鹿野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A7
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	84.75	98.39	2,322

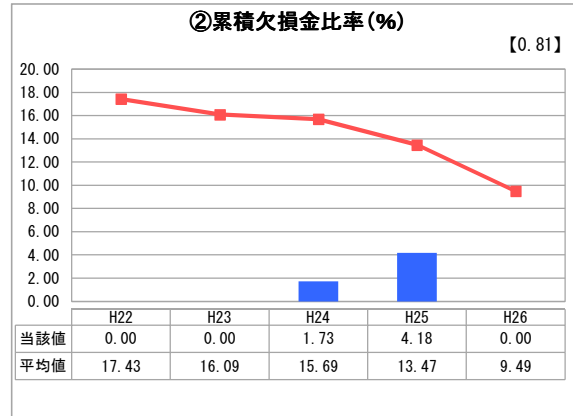
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,788	171.26	74.67
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,374	58.20	212.61

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成26年度全国平均

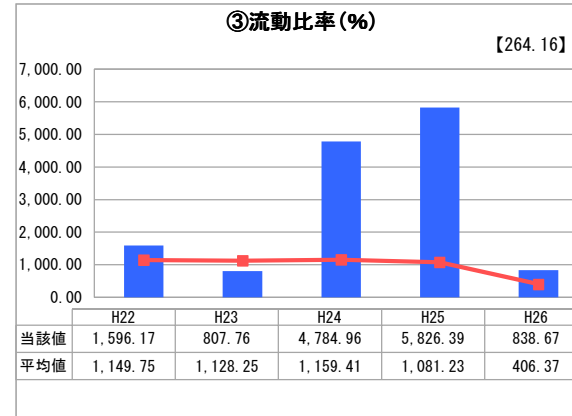
1. 経営の健全性・効率性



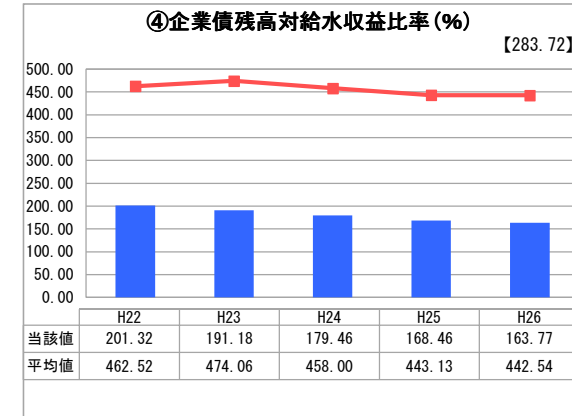
「経常損益」



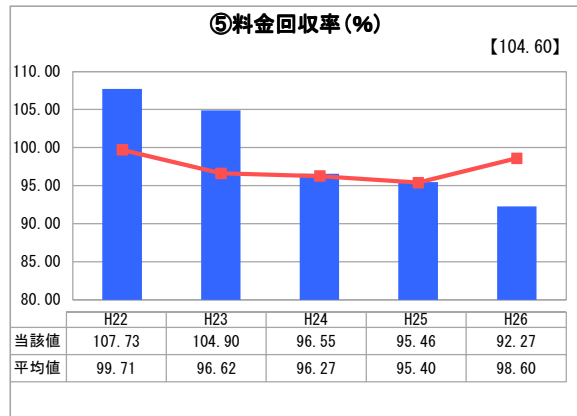
「累積欠損」



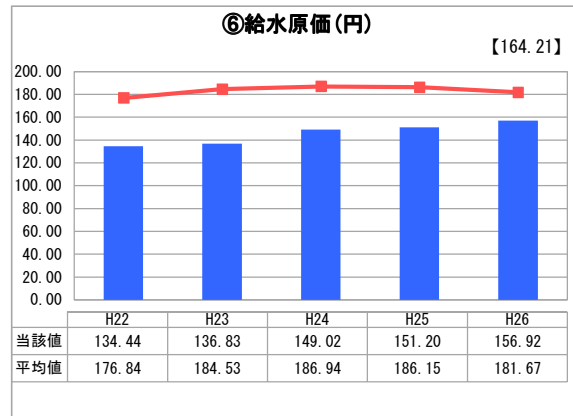
「支払能力」



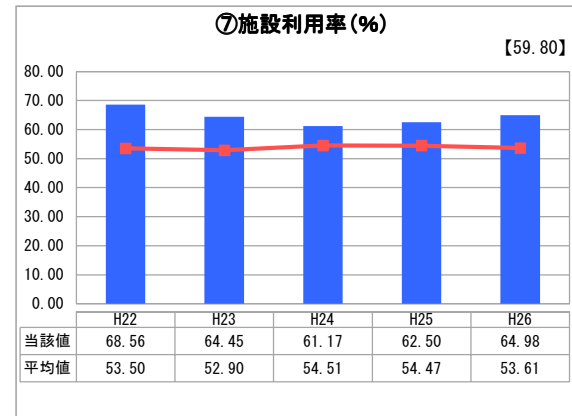
「債務残高」



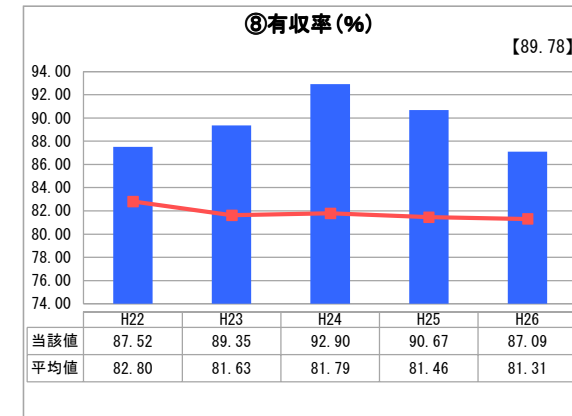
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

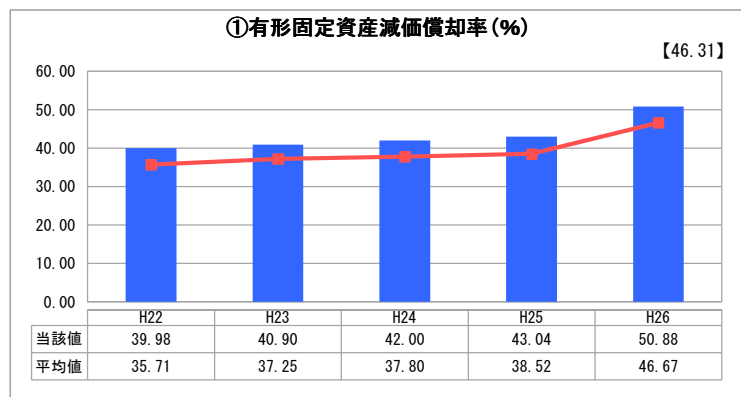


「施設の効率性」

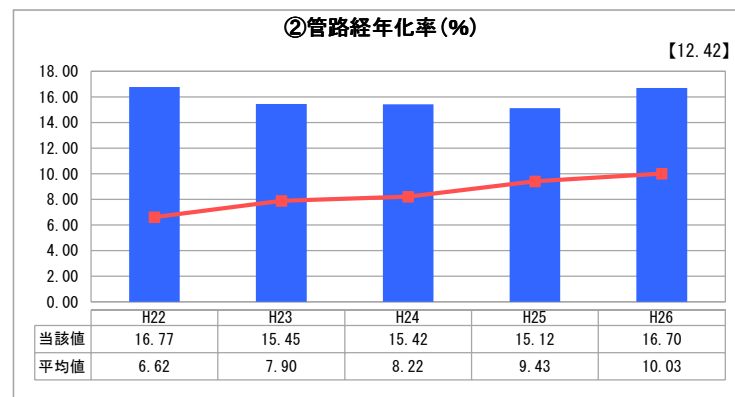


「供給した配水量の効率性」

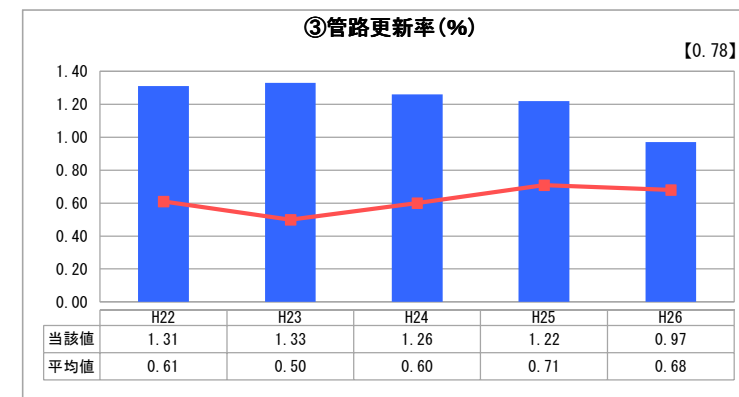
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性については、経常収支比率①を見るように平成24年度から赤字経営となり、料金回収率⑤も減少しています。主な要因は、人口減少や節水機器の普及などによる給水収益の減少であり、今後もその傾向が続くものと思われます。小鹿野町では経営面を考慮した料金改定を昭和61年以降29年間行っていません。そのため、安心・安全な水道を未来永劫に引き継ぐためには、住民生活を第一に考えた料金改定を早急に行う必要があると考えます。また、有収率⑧が3年連続で減少し、給水原価⑥が上昇していますが、その主な要因は老朽管の漏水等によるものです。必要な施設更新を図ることで、無駄な漏水を無くし、効率的な運営に努めたいと思います。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況については、管路経年率②が類似団体平均値よりも高く、管路更新率③が1%を下回っていることから、施設の更新(整備)が遅れていることが分かります。そのため、地震等による断水が発生した場合には、住民生活や企業活動に多大な影響を与えてしまうことから、老朽管及び施設の更新事業(耐震化)の計画的かつ早期の実施に努めたいと思います。

全体総括

経営分析からは、上記のようなことが推察され、水道事業が安心・安全な水の供給を継続するためには、適切な料金改定を行い、赤字体質を脱却するとともに、老朽化施設の更新を図る必要があります。そのため、秩父地域(1市4町)では、同様の課題を抱える水道事業者が協同し、水需要の不均衡の解消、施設整備水準の平準化、恒久的な事業運営に向けた運営基盤強化のための水道広域化を選択し、平成28年4月1日より秩父広域市町村圏組合による運営を開始します。(料金改定を、統合後5年以内に行う予定です)

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。